



粒痕のある土器No. 1

岩沼市長岡遺跡出土のものである。器高は6.1cm、口径は8.7cm、底径は4.8cmである。色調は、内外面とも暗褐色を呈する。胎土には粗砂粒が多く含まれている。器面は内外とも凹凸があり、特に内部底面はそれが著しい。器形は体部からほぼ直立ぎみに立ち上がる。口縁部はやや肥厚している。文様は、口縁部と体部にしRの単節斜縄文が施されている。また口縁部と体部の境には綾络文が施されている。外面底部と内面は雑なミガキが施されている。底部から約1cm上位で粒の圧痕が認められた（表紙写真の矢印）。土器は太田が保管している。なお、以前に本土器は、太田によって宮教考古第6号に紹介されている。（太田 昭夫）